

www.greekmath.org/senkyo/ もご覧ください。

研究教育実績：大阪府立大学教授。ギリシャと西欧近世の数学史が専門。授業では科学史全般（たとえばDNAの発見まで）、技術史、環境問題も講義してきました。最近では戦後の大型工業施設（石油精製や原子力関連）の立地計画と反対運動を奄美群島で調査して地元村誌に執筆中。学会への貢献：1980年入会。（研究）ほぼ毎年、年会で発表。欧文誌に論文3本。和文誌で書評、研究ノート。（行政）2007年の会長選挙で「科学史通信」の充実を提案しました。これは科学史ミニ講義などで実現しました。09年の選挙管理委員長を買って出て、立候補者の言葉を以前の百文字から委員四百字、会長八百字に増やしました。15年の年会（大阪市大）で準備委員に加わり、一般講演の長時間枠（40分）、エクスカージョンなどを提案し、実現しました。所信：全体委員と会員との懇談の機会を積極的に設け、会員の声を学会運営に反映させます。具体的には（1）和文誌編集に編集協力委員(associate editor)を加えて編集体制を強化し、著者に役立つ査読報告、レフェリーの当たり外れの少ない審査を目指します。（2）若手研究者の支援。研究発表会を企画して交通費等を補助します。（3）科学史通信を増ページして概説記事を充実、一般向けの講演を実施します。（2）（3）とも、人が集まるときは全体委員との懇談の時間を取り、会員の意見や提案を求めて、学会運営に生かします。各地の支部の活動もさらに支援します。（4）選挙が実質的に機能しない全体委員30人の制度を再検討。（5）将来の財政見通しについて幾つかのシナリオを検討して報告。（6）隣接分野の学会との交流、シンポジウムの相互乗り入れなどをさらにすすめます。学会は全体委員の常連だけでなく、会員全体のものです。皆で学会の将来を考えていきましょう。